

都内東部地域の保育園・幼稚園の敷地内、特別支援学校の敷地隣接地の
放射線量測定結果について（概要版）

2011年9月15日

日本共産党東京都議会議員団

調査日 8月25日～9月3日

調査した所 保育園・幼稚園（江戸川区3園、葛飾区2園、足立区1園）の敷地内及び
都立特別支援学校（足立区1校、葛飾区2校）の敷地隣接地の延べ114カ所

目的と内容

3区とも園庭中央部、砂場の測定はおこなっているが、ホットスポットと目される箇所については、ほとんど測定していないため、園内のホットスポットと目される箇所を重視して測定
3園では、専門家の協力を得て、ホットスポット地点を応急除染し、その後の放射線量を測定

調査結果

保育園・幼稚園の敷地内

室内は、1m高で毎時0.04～0.08マイクロシーベルト。園庭・砂場中央部では、1m高で毎時0.09～0.17マイクロシーベルト、5cm高で毎時0.12～0.31マイクロシーベルト。

側溝フタ上部、遊具下、階段下など雨の溜まりやすい箇所では、5cm高で毎時0.28～1.35マイクロシーベルトという、かなり高い放射線量が測定された。

3園のホットスポットでは、表層土や砂の除去、水洗いなどの応急除染をおこない、放射線量が40%～60%減少したことを確認した。

子どもたちが直接接する場所ではなかったが、近隣建物の2階ベランダの排水溝から除去した枯葉を集めた袋から3.75μSv/h、園屋上の排水溝で1.05μSv/hの箇所があった。

どこの園からも、「隅から隅まで測定していただき安心した」「心配だった所の放射線量がわかり、表土除去で安心できる線量になって助かった」など感謝された。

特別支援学校の隣接地

地上1m高で毎時0.17～0.27マイクロシーベルト、地上5cm高で毎時0.24～1.47マイクロシーベルトという結果であり、学校敷地内及び隣接地においても、ホットスポットの測定及び除染が重要であることが確認できた。

調査結果にもとづき、東京都にたいして、区市町村と協力して、保育園、幼稚園などを中心に、子どもたちの生活の場でのきめ細かな測定をおこなうことでホットスポットを発見し、必要な除染をすること 自主的な除染をおこなう園や学校への財政的、技術的支援をおこなうこと、区市町村に貸与した測定器を精度の高いものに替えること - など、子どもの安全を必ず確保するという厳しい立場で放射能対策をすすめるよう、申し入れた。